Grant County Komaki City 2025

派　遣　行　程

4月29日	小牧市出発、名古屋駅から品川駅へ 羽田空港からシアトル・タコマ空港へ グラント郡到着 ホームステイ開始
4月30日	学校体験
5月1日	学校体験
5月2日	学校体験
5月3日	学校体験 フェアウェルパーティ
5月4日	グラント郡出発 シアトル・タコマ空港から羽田空港へ 機内泊
5月5日	羽田空港から中部国際空港へ 小牧市到着

アメリカで学んだこと

２年　寺田 ミシェリ 夕梨亜

　私は滞在事業でたくさんの事を学ぶことや経験することができました。研修会で、グラント郡のみなさんのために出す出し物などの練習をしていたときは、他校の生徒とも仲を深められてとてもうれしかったです。空港では、一気に海外の方がふえとても日常では感じられない気持ちになりました。アメリカの空港に着いた時は、最初は初めて来た場所だとは感じられませんでした。しかし実際にアメリカの方々としゃべると一気に文化の違いなどを感じとてもわくわくしました。バスの中から見ていた景色は、日本で日常的に見る景色とは違いとても不思議な気持ちになりました。スーパー、トイレなど日常的に使ったり、行ったりするところでもまったく違うような場所のように感じました。グラント郡に着き初めてパディの子やバディの家族に会えて、とてもうれしくてわくわくしました。アメリカの学校では色んな事が体験できたり初めて経験できたこともたくさんありました。

　一日目は初めにバディの子とアメリカで言う部活動を体験することができました。バディの子はソフトボール部に入っていて、自分も日本ではソフトボール部入っていたのでとてもうれしかったです。アメリカのソフトボールと日本のソフトボールの違いなども知れていい経験ができ、とてもよかったです。夜はバディの家に帰り、家ではたくさんの事が知れました。日本にいたときはアメリカの家族というものがどんなものかは、わからなかったけれど、実際にアメリカのバディの家旅に受け入れてもらい三日間いっしょにすごしてみて、本当にバディの子も家族もみんなやさしくささいなことでも気を遣ってくれてとても家族という愛情をしれました。家での居ごこちはとてもよく、不安だったこともなく家族の一員のように接してくれました。

アメリカで学んだこと

２年　寺田 ミシェリ 夕梨亜

二日目は、朝、学校で全校のみんなに自己紹介をし、そのあとにみんなでバドミントンをしました。自分はみているだけだったけれど、日本でいう体育祭のように楽しめました。みんなでもりあがりみんなで応えんをしながら、くやしがるときはみんなでくやしがり、よろこぶときはみんなでよろこんでいてとてもよかったです。

三日目はみんなでロケットをとばし、夜には全員で集まりバーベーキューをしたり、子どもたちみんなであそんだりして本当に楽しかったです。この三日間は一生に一度の思い出になり、一生心に残ります。

滞在事業は始まるまえの研修会でもグラント郡でも本当に色々な体験と経験と学ぶことができました。この機会でもっと英語をがんばりたいという理由ができて、このような体験ができて、本当によかったです。グラント郡のみんなにも日本でお世話になった市役所の小牧シティプロモーション課のみなさんにも本当に感謝しています。本当にありがとうございました。この体験を心にしまって、これからは前とは違う考え方で生活ができたらと思います。

ホームステイでの体験

２年　加藤　優翔

　僕はこのグラント郡への派遣事業で、アメリカの文化や農業について深く、肌で感じました。空港から出たとき車が右側を通行していることや、とても大きな畑に機械だけで水をあげていることなどに違和感がありました。グラント郡ロイヤルシティのロイヤル中学校には、小牧市を出てから約24時間かけてつきました。その時僕は、とても緊張していました。ただ、ホストファミリーのみなさんが優しく接してくれたので、緊張がほぐれ、初日は楽しく過ごすことができました。

　2日目の学校では、とてもフレンドリーに話しかけてもらえました。アメリカの学校では、学校で朝ごはんを提供してくれることにおどろきました。また、授業は日本とは違い、次に受ける教科の部屋に行くというやり方です。最初は、次の時間どこに行くのかわからなくなりましたが、だんだん慣れていきました。そこでできた友達には、日本から持ってきたお菓子を渡したりして仲良く過ごしていました。授業中もとても自由で、日本にはないパソコンを使ったアプリクリエイトの授業では、3Dプリンターを使っていました。仲良くなったクラスメイトにMVPのトロフィーを作ってもらいました。

　昼食は、日本よりも少し早い11時30分頃に、食堂でホストマザーが作ってくれたサンドイッチを食べました。その日の夜はみんなでピザを作って食べました。自分で作るピザはいつもよりおいしかったです。

　そして、日本の文化を紹介する発表では、リコーダー、けん玉、習字を披露しました。不安や緊張もあったけど、いざ始まると自分の役目をしっかり果たせました。とても楽しかったです。ホストファミリーに渡したお土産はとても喜んでもらえて嬉しかったです。

ホームステイでの体験

２年　加藤　優翔

　最終日は前日までに作っていたロケットを打ち上げました。とても高く飛び興奮しました。その夜、一緒に行った仲間とそのホストファミリーとBBQをしました。日本のBBQとアメリカのBBQは違い、自分の好きなようにハンバーガーやホットドッグを作って食べるものです。日本のBBQとは違うのも、とても新鮮で楽しかったです。アメリカの家の敷地はとても広く、バスケットボールやピッグボールというスポーツができるコートがあり、バレーボールのコートやトランポリン、乗馬もできるスペースがあるほどです。アメリカは夜の寝るのが早く朝も7時に起きるというとても規則正しい生活を送っていました。これがあのアメリカ人の体格や身長を作っているのだと考えました。

　お別れの日はすごく寂しかったですが、ホストファミリーが温かく見送ってくれました。お別れのあとはグラント郡のダムの社会見学に行きました。アメリカの先住民の暮らしを知ることができ、とてもいい経験でした。その日の夜に食べたアメリカ人が作る中華は、ボリュームがあり濃い味付けでした。アメリカでは他にもタコスをたべました。タコスは薄い生地に自分の好きなように具材を載せて食べました。とてもボリューミーで美味しかったです。帰りの飛行機は行きより一時間長い10時間でしたが、大きなことがなく無事帰ってくることができました。

　日本に帰ってからは家族や学校の友達にいろいろな体験談や日本と違う文化のことをたくさん話しました。そしてこれからも、世界の文化に触れながら感じていくものもたくさんあると思うので、この派遣事業のことを思い出しながら生活していきたいです。そして、大人になったら、またアメリカに行ってみたいと思います。

アメリカの留学で学んだ事

２年　冨田　結華

　私はグランド郡派遣事業でたくさんの素敵な経験をすることができ、とても感謝の気持ちでいっぱいです。

　初めての家族のもとを離れて一人海外での留学はとても不安でした。実際アメリカに入国する際、空港での簡単な質問にも答えられず緊張してました。先生方の優しいサポートと引率のおかげで無事手続きを終え入国することができ、本当にありがとうございました。着いてまず学校に向い、授業を終えた生徒と先生方が私たちの為に学校見学をしてくださいました。

　私が通っている日本の学校よりとても広い校舎で、見慣れてない建物、個性豊かに飾ってある教室、日本とは違う、自由な感じが伝わりました。特に全校生が座って身近に観戦できる体育館はとても印象に残りました。選手の緊張感と観客の感動が伝わりやすいような作り方でした。そのあとは今回バディーになった友達のブルックリンちゃんの部活動ソフトボール部に参加させてもらい優しく教えてもらいソフトボール部のみんなと一緒にプレイするなどして私の緊張をなくすことが出来、明日からの学校生活がわくわくしてきました。

　私がお世話になったホストファミリーはお父さん、お母さん、二人のお姉さん、お兄さんそして私と同じ年のブルックリンちゃんで6人家族のとても賑やかで優しいファミリーでした。初めから優しく私に分かるようにたくさん話かけてくれたおかげで徐々に英語苦手を克服してみなさんと英語で交流することが出来るようになりました。日本から持ってきたお土産に日本の箸を渡し、とても喜んでくれてとても嬉しかったです。夕飯の時は箸を使って、箸の使い方は難しかったようで笑いの絶えない晩御飯のひと時を過ごすことができました。

　ホストファミリーのお父さんは学校の体育の先生でした。おかげで学校での生活は緊張することなく過ごすことが出来ました。学校で過ごす中で日本とは違うことばかりでびっくりの連続でした。
アメリカの学校の朝食は学校で食べる、基本クラス分けなどなくTシャツの色で分けたりして自由な楽しい学校生活を過ごしてました。思い出はみんなとチームを作って色に分けてバトミントンの試合をして戦ったことです。みんな一丸となってとても熱い戦いになりました。

アメリカの留学で学んだ事

２年　冨田　結華

後、全校生でひとチーム9人で、(WAKWAK)ダンスを踊るイベントでたくさん汗をながしながら覚えて夢中に踊るダンスは楽しくて、今までの中で一番の思い出でした。

アメリカでの放課後は近所の学校の友達の家に招待してもらい経営している農園(リンゴ農園)を見学させてもらいました。リンゴ農園の見学は初めてですが農園の広さと規模にびっくりしました。大きな工場のような中には機械がたくさん並んである中で赤いりんごが次々と流れてました。友達に頂いたリンゴは日本のリンゴよりは小さいサイズでしたが真っ赤でとても甘くておいしかったです。

友達と一緒に写真撮ったり、バレーボールしたり馬に乗ったり農園を走り回ったりして放課後も多彩で楽しい時間を過ごすことが出来ました。

最終日には、学校でみんなとロケットを飛ばす実験をしました。火薬を使って飛ばすロケットは想像以上に空高くまで飛んでキャッチすることができない迫力ある実験をさせてもらいました。その後は今回同行した留学生の全員とホストファミリーと先生の方たちとバーベキューを食べて、遅くまでビックボールなどしながらアメリカの最終の夜を楽しみました。

一週間アメリカでの貴重な体験は毎日が楽しく充実な日々であっという間に過ぎてしまいもっとみんなと居たい気持ちで涙が止まりませんでした。最後まで私たちを乗せたバスを追いかけて手を振ってくれたグラント郡の皆様に感謝の気持ちでいっぱいでした。
ありがとうございました。また会いたいな、、、

今までサポートして下さったシティープロモーション課の皆さん、小牧市役所の方には感謝申し上げます。おかげさまで忘れられない素敵な思い出と経験になりました。この機会で英語を勉強する目標ができました。

グラント郡ホームステイ

２年　岸田　昇大

私は今年の5月に、アメリカにホームステイをするという貴重な体験をしました。初めての海外生活で、出発前は不安や緊張もありましたが、実際に現地の人々と交流し、さまざまな文化や習慣に触れることで、多くの学びと気づきを得ることができました。この感想文では、アメリカでのホームステイを通じて特に印象に残った3つのことについてお話ししたいと思います。

自分がアメリカに行って学んだことは、３つあります。

1つ目は異文化交流を通じた学び
アメリカで国際交流を体験する中で、多様な価値観に触れることができ、自分の世界が大きく広がりました。特に印象に残っているのは、学校の授業の違いです。

例えば、理科の授業では、自分たちで作ったロケットに火薬を詰めて実際に飛ばすという、スケールの大きな実験を行いました。日本の学校ではなかなかできない体験で、とても刺激的でした。体育では、みんなで体育館に移動して体育をしながら、スピーカーで、音楽をながしていて体育館には、野球場にあるような椅子が、並んでいて、スクリーンが、体育館についていました。スクリーンでみんなで、動画に合わせてダンスを踊りました。日本の体育館にはスクリーンはあるけど大きさの違いにびっくりしました。また、「アプリケーション」という授業では、3Dプリンターを使ったものづくりや、プログラミング、ゲームなどを体験しました。日本では授業中にこうした活動をしたことがなかったので、とても新鮮で、良い思い出になりました。

グラント郡ホームステイ

２年　岸田　昇大

　2つ目は、アメリカの生活習慣です。ホームステイに行くまでは、アメリカと日本の違いは、食生活ぐらいしか知りませんでしたが、ホームステイに行って、食生活の面では、もっと詳しく知ることが、出来ました。食生活、以外にも生活や文化について、より多くの違いを知ることができました。例えば、アメリカでは家の中でも靴を履いたまま過ごすことが普通で、日本との違いに驚きました。また、アメリカでは基本的にお風呂に浸かる文化がなく、シャワーのみで済ませることが多いです。日本では湯船に浸かって疲れを取る習慣があるので、アメリカではどのように疲れをとっているのか気になりました。食生活の面では、料理の一つ一つがとても大きく、日本では考えられないサイズのものが多くて驚きました。

　3つ目は、コミュニケーションの取り方です。異文化間での、円滑なコミュニケーションは、今後の生活や人間関係の構築において最も重要だと思いました。ホームステイ先で、自分の意見をなるべく自分の口からいうことを心がけました。自分の口からいうことを心がけたことによって英語の重要さプラス楽しさを学ぶことが、出来ました。これらの経験をこれからの人生において大事に、しっかり、しゃべった楽しさや文化の違いを知ったうえで、大事にしたいと思いました。

　今回のホームステイで、いろいろなことを学んで、とても楽しかったです。この体験をさせてくれた市役所の人たちや先生たち、そして添乗員さん、本当にありがとうございました。

アメリカで過ごした7日間

３年　鈴木　美憂

　私はゴールデンウイークに、アメリカのロイヤルシティという町にホームステイに行きました。5泊7日の短い間でしたが、人生で初めての海外、そして初めて家族と離れて過ごす時間でもあり、とてもドキドキしていました。私は英検3級を持っていますが、心の中では英語がちゃんと通じるかどうかとても不安でした。

　出発の前日は不安な気持ちよりも、楽しみな気持ちのほうが大きくて、ワクワクしながら寝ました。当日の朝、「とにかくやってみよう！」という気持ちで、勇気を出して出発しました。

飛行機で約10時間。日本とはまったく違う風景が見えてきて、「本当にアメリカに来たんだ」と実感がわきました。ホームステイ先の家族は、明るくて優しいお父さんとお母さん、それから私より年下の女の子がいました。最初はうまく英語が出てこなくて、笑ってごまかしてしまうこともありましたが、ホストファミリーは私の言葉を一生懸命聞いてくれて、ゆっくり話してくれたり、ジェスチャーで伝えてくれたりしてくれたので少しずつ安心して話せるようになりました。

　ホームステイ中は、いろいろな体験をしました。ホストファミリーと一緒にスーパーに行ったり、友達の家でバーベキューをしたり、ホストファザーが営むりんご工場にも連れて行ってもらいました。りんご工場では、りんごを試食させてくれました。美味しかったです。アメリカのスーパーはとにかく大きくて、売っている物もカラフルで、日本のスーパーとは全然違うスーパーだったので、見ているだけでワクワクしました。バーベキューでは沢山の友達を呼んで、みんなでハンバーガーを食べたり遊んだりしました。憧れていた初めてのアメリカだったので、アメリカに自分がいたことが夢のようでした。夜はホストファミリーとリビングで一緒にボードゲームをしたり、日本の私の家族の写真を見せてあげたりしました。日本のお菓子と文房具を持っていったらとても喜んでくれて、「これは何の味なの？」と興味津々で聞かれました。そのとき、「ちゃんと説明しなきゃ！」と思って、一生懸命英語で伝えようとしました。うまく言えないところもあったけれど、「伝えたい！」という気持ちがあれば、言葉の壁は乗り越えられるんだということを感じました。

アメリカで過ごした7日間

３年　鈴木　美憂

一番印象に残っているのは、学校生活です。初日から日本の学校とは違うことが多すぎてずっとびっくりしてました。校長先生と体育の先生が常にスピーカーを持ち歩いていて音楽をかけてみんなで踊ったり歌ったりしていて、こんな学校だったら毎日行きたいと思えると思いました。最終日の学校では、みんなで作ったロケットを飛ばしました。本格的に飛ばしていたので、流石アメリカだなと思いました。学食は最終日だったので特別にハンバーガーとお菓子が沢山出ました。学食は毎日違うメニューだけど全部美味しかったです。学食を食べたあとは外でみんなでバレーボールをしたり、写真を撮ったりしました。そのあとに体育館でみんなでダンスをしました。クラブみたいにキラキラしていて、みんなで楽しみました。

そして、ホームステイ最終日。空港でお別れのときに、ホストファミリーが「あなたと出会えてうれしかった。またロイヤルシティに来てね！」と言ってくれて、本当にうれしかったです。私は本当に日本に帰りたくなかったので、泣きながら英語で、「4日間本当にお世話になりました。私は日本に帰りたくありません。私はずっとロイヤルシティにいたいです」と伝えました。たった4日間を一緒に過ごしただけなのに、こんなにホストファミリーと仲を深められるとは思っていませんでした。

今回のホームステイを通して、私は「伝えることの大切さ」を学びました。英語が完ぺきに話せなくても、笑顔やジェスチャー、そして「伝えたい！」という気持ちがあれば、ちゃんと気持ちは伝わるんだということを実感しました。そして、もっと英語が話せるようになって、もっといろんな人と話せるようになりたいと思いました。日本に帰ってきてから、あの1週間がまるで夢のように感じます。でも、私の心の中には、ロイヤルシティでの思い出と、出会った人たちの笑顔がずっと残っています。この経験をこれからの勉強や生活にいかして、もっと成長していきたいと思います。

アメリカでの五日間の生活を通して学んだこと

３年　中野　實大

運転席が左側、そして道路は右側通行。日本とはまったく異なる環境の中で、僕のアメリカでの五日間の生活が始まりました。正直、出発前は不安でいっぱいでした。「どんな人たちがいるんだろう」「うまく馴染めるかな」と、いろいろなことを考えていました。

ホストファミリーが待つ学校へ向かう車の中から見た景色は、今までに見たことのないものでした。どこまでも広がる大きな畑。社会の授業で「アメリカは広いから大規模な農業が行われている」と学んだことはありましたが、実際に自分の目で見ると、何メートル続いているのかわからないほどの畑がいくつも続いていて、「その土地に合った、その土地でしかできないことをフルに活用しているんだな」と感じました。

そうしているうちに、目的地であるロイヤルシティの「Royal Middle School」に到着しました。幼稚園、小学校、中学校、高校が一つの広大な敷地に集まっていて、想像以上の広さに驚きました。そこにはたくさんの人たちが待っていて、初めて話したときには、みんなとてもフレンドリーで温かく迎えてくれました。その優しさに、行く途中で感じていた不安が少しずつ和らいでいきました。

そして、ホストファミリーとの生活が始まりました。「どんなことを話せばいいのかな」「ちゃんと自分の言いたいことを伝えられるかな」と不安でしたが、一緒に遊ぶうちに、自然と楽しむことができ、不安は消えていきました。

アメリカでの五日間の生活を通して学んだこと

３年　中野　實大

翌日からは、いよいよ学校での生活が始まりました。僕が一番意識したのは、「笑顔で、何事も全力で楽しむ」ことです。一生に一度行くかどうかもわからない海外体験。生徒も先生も、派遣された僕たちを本当に温かく迎えてくれて、最高に楽しい日々を過ごすことができました。

特に印象的だったのは、みんなが「自分が楽しむだけでなく、みんなで楽しもう」という気持ちで接してくれたことです。誰も嫌な顔をせず、元気いっぱいで、とてもフレンドリーでした。授業内容は日本と似ているものも多かったですが、特に印象に残っているのは体育の授業です。広大な敷地を使った授業で、みんなが笑顔で、心から楽しんでいる姿が印象的でした。

今回の体験では、現地のアメリカの人たちと多くの時間を過ごし、日本との文化の違いにたくさん驚かされました。そして「笑顔で過ごすことの大切さ」を学びました。辛いときや疲れているときでも笑顔を心がけることで、自分の気持ちも前向きになり、自然と会話も弾みました。

また、「友達の大切さ」についても深く学びました。「誰だからいい」「誰だからいやだ」と決めつけずに、誰とでも関わってつながり、協力すること。それが、学校生活をより楽しくし、他の場所でも豊かに過ごすために大切なことなのだと実感しました。

僕はまだ中学3年生で、学ばなければならないことも、知らないこともたくさんあります。でも、この貴重な経験を胸に刻んで、これからの生活に活かしていきたいと思います。これからの人生の中で、さまざまな出来事があると思いますが、今回のことを思い出しながら、一歩一歩前に進んでいきたいです。

5日間のホームステイ

3年　坂本　玲菜

私はゴールデンウィークに、アメリカのワシントン州グラント郡で5日間のホームステイを体験しました。私にとって初めての飛行機、初めての海外、初めての英語漬けの環境と初めて経験することが多くとても緊張していました。でも実際に過ごしてみると毎日が新しい発見と楽しい経験の連続で、とても充実した時間を過ごすことができました。

私は現地のミドルスクールに通い、現地の生徒とペアになって一緒に学校に通い一緒に授業を受けたりしました。家でも学校でも常にペアと一緒だったのでとても仲良くなることができました。学校の生徒は全員すごく親切で、フレンドリーに接してくれたのですぐに打ち解けることが出来ました。とても英語が得意でない私にも分かりやすく話しかけてくれたり、困った時に助けてくれたりととても心強かったです。英語に不安があっても、ジェスチャーや表情で気持ちは通じるということを実感できました。

学校の授業は日本に比べて、自由な雰囲気で先生と生徒の距離が近いと感じました。また、日本とは違い一人ひとり時間割りが違っていて教科ごとに教室を移動することに驚きました。教科ごとの教室はそれぞれとても個性があって面白かったです。

私が特に印象に残っているのは、全校生徒が体育館に集まってダンスをした時間です。音楽に合わせてダンスをすることが最初は、恥ずかしかったけど周りの生徒たちが楽しそうに踊っているのを見て私も思いきって参加しました。ダンスは思ったよりも難しく、苦戦していた時に優しく教えてくれた事が嬉しかったです。ダンスを通じて心が通じあったように感じ、とても楽しい時間になりました。

5日間のホームステイ

3年　坂本　玲菜

また、日本から持っていったお菓子を配った時も喜んで貰えたので良かったと思いました。特に人気があったのはこんにゃくゼリーです。みんなが美味しそうに食べてくれたのが嬉しかったです。

さらに、ロケットを作って打ち上げる授業もとても楽しかったです。紙やプラスチックの部品を使って自分だけのロケットを作り、それを実際に外で飛ばすという活動でした。日本の学校ではあまり経験できないもので、自分のロケットが空に向かって高く飛んでいく様子はとても迫力がありました。

ホームステイ先の家族は私をとても温かく迎えてくれました。色々な会話をしながらアメリカの生活を体験することが出来ました。うまく英語で話せないこともあったけど、伝えようとする気持ちを大切にしてくれたおかげで焦らずに喋ることができました。朝食や夕食を一緒に食べながら話したり、一緒に映画を見たりして家族の温かさを感じることができました。私を本当の家族のように接してくれたのが嬉しかったです。

今回の中学生派遣事業を通して、英語の大切さや異文化理解の楽しさを改めて実感することができました。自分から積極的にコミュニケーションをとって現地の人たちと深く関わり合うことができました。また、アメリカの学校生活や文化に触れることで、自分の視野が広がったと感じました。この貴重な経験をこれからの自分の成長に繋げていきたいと思います。

忘れられない時間

３年　島津　心春

私は学生の内に海外で色々な経験をしたい！外国のお友達を作りたい！そして、そこで暮らす人々の生活や文化を肌で感じたいと思い、このグラント郡中学生派遣事業に参加しました。行く前は少し不安や緊張もありましたが、行ってみるとみんな優しくてユーモアのある良い方ばかりで安心しました。

ホームステイでは、実際に現地に行って同じ生活をする事で、テレビやSNSだけでは分からなかった事を知る事ができ、とても貴重な体験でした。私のホストファミリーは7人家族と犬が2匹いる大家族でした。ファミリーのみんなが温かく迎えて下さり、英語での会話も徐々に慣れる事が出来ました。お家は地下もあり凄く広くてオシャレでした。私が驚いたのは朝ごはんがシリアルだった事です。何種類ものシリアルがあり、好きなものを選んで牛乳をかけて食べるスタイルでした。とても美味しくて気に入ったので、買って帰り日本でも朝ごはんに食べてアメリカ生活を思い出しながら余韻に浸りました。ずっと憧れていたホームステイを実現する事ができ、想像していたものよりも遥かに楽しくて一生忘れる事のない最高の経験となりました。

現地の学校では、授業のスタイルも、服装も放課も色々な事が日本と違い、とても新鮮で驚きました。例えば家を出る時間、授業数、学校へは車で送り迎えする事、キットを使ってロケットを作り、それを飛ばす授業もありました。部活動に参加も参加しました。またバディのお兄ちゃんの野球観戦にも行きました。学校には広大な敷地に様々な設備が整っているので、何をするにも環境が整っていていいな、と思いました。実際に授業を体験すると、すべて授業が英語で進んでいくことに慣れず、理解することは難しかったけれど、自由でみんなが発言しあう授業の雰囲気が日本とは違い素敵だと思いました。留学をする中で特に嬉しかった事は沢山のお友達が『写真とろうよ！』と気さくに声をかけてくれた事です。おかげで、会話が増え沢山の思い出の写真を残す事が出来ました。もう一つ嬉しかった事は、ホストマザーが『スクールの給食が苦手だったら、作って持たせてあげるから言ってね。』と言ってくれて、いざランチタイムになると、私の所に来てくれて、『一緒に外に食べに行こう！』と連れ出してくれて、バディのアビーと3人でランチにメキシコ料理を食べにも行ったことです。ホストマザーの優しい気遣いがとても嬉しかったです。

忘れられない時間

３年　島津　心春

　ホストファミリーやお友達との会話を通して、英語の楽しさをより実感する事が出来ました。英語が上手く話せなくてもある程度は伝わるし、ジェスチャーを使ったりして伝えようとする姿勢が大切だと分かりました。このアメリカでのホームステイの経験を通して、普段の学校の自分とは違う、自分の知らなかった新しい自分を見つけられたような気がします。毎日が凄く充実していて、今までの人生で1番楽しいあっという間の1週間でした。別れの時、『また帰って来てね。』と言ってくれたファミリーの言葉やバディの涙に、私も涙が溢れました。出発したバスを追いかけて見えなくなるまで手を振ってくれていたみんなの光景が今でも目に焼き付いています。

　このホームステイで出会った沢山の仲間の事を一生忘れません。そして、私を家族のように迎えてくれたホストファミリーに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも色々な事に挑戦して、もっと勉強を頑張って、英語をスラスラ話せるようになって、またホストファミリーに会いに行きたいです。

未来を拓く国際交流
～グラント郡中学生派遣事業を通して～

北里中学校　山下　亮

１．はじめに

小牧市では、友好都市『グラント郡』との交流を深めるとともに、次代を担う本市中学生が国際感覚を習得することを目的として、海外中学生派遣事業を実施しています。今年度は、8名の生徒が5泊7日の交流体験を行いました。

引率教員として、生徒達が研修や現地滞在を通して見せた成長の軌跡をここに記録し、彼らの努力と感動、そして学びに満ちた毎日を振り返ります。

２．準備も冒険の一部

本派遣事業を行うにあたり、3回の事前研修が行われました。

第1回目は2月に実施され、生徒８名が顔を合わせ、本事業の目的が共有されました。その後、現地で披露するパフォーマンスや、お世話になる現地関係者への手紙の担当を決めました。生徒達は、日本文化を伝える手段として、アニメーション映画のテーマ曲に合わせたリコーダー演奏とけん玉の披露、最後に書道で「感謝」の文字を表現するという、創意工夫に富んだパフォーマンスを考案しました。初対面ということもあり、生徒達はまだ遠慮がちでしたが、今できる精一杯のことをしようと、アイディアを出し合っていました。

3月に行われた第2回の研修では、お世話になる現地関係者への手紙作成やパフォーマンスの練習に取り組みました。協力してリコーダー演奏用の楽譜を読み込んだり、けん玉の仕方を互いにアドバイスし合ったりする姿から、次第に連帯感が芽生えていきました。

4月に行われた第3回の研修では、手紙やパフォーマンスの最終確認が行われました。本番を想定した構成や演出、現地生徒の体験時間を取り入れる工夫など、話し合いの内容もより実践的になっていきました。渡航に関する説明に対しても真剣に耳を傾け、現地での生活を具体的に想像し、「こういう時はどうすればよいか」と主体的に質問する生徒の姿が印象的でした。

出発一週間前に行われた結団式では、市長・教育長・団長からの激励の言葉を受け、生徒達は本事業の目的を再確認しつつ、来週に迫る海外での生活への覚悟を固めていました。

未来を拓く国際交流
～グラント郡中学生派遣事業を通して～

北里中学校　山下　亮

３．アメリカで広がる世界

　出発当日、生徒達は不安と期待の入り混じった表情で小牧山の麓に集合しました。保護者との別れを惜しみながら、名古屋駅へ。新幹線と在来線を乗り継ぎ羽田空港へ向かい、９時間以上のフライトを経て、シアトルタコマ空港に到着しました。

　入国審査では、生徒達は緊張しながらも、今まで学んできた英語や事前に練習してきたフレーズを使って、職員と自力でやり取りしていました。その後、バスでグラント郡ロイヤルシティへ向かいました。シアトル市街地の景色に目を輝かせていた生徒達は、郊外に進むにつれ、広大な大地が広がる風景に日本とのスケールの違いを実感していました。

　ロイヤルシティに到着後、それぞれのホストファミリーや現地教員と対面し、初めての英語での会話に緊張しながらも、積極的にコミュニケーションを取っていました。

　翌日から始まった学校生活では、100名を超える現地生徒の前で英語による自己紹介を行い、レクリエーションのバドミントン、ロケット作り、英語による英語の授業など、さまざまな活動に参加しました。

　2日目には、異文化交流のパフォーマンスを披露しました。リコーダー演奏、けん玉、書道の披露に加え、現地生徒が実際にけん玉を体験する時間を設け、大いに盛り上がりました。また、授業では長文の文法演習にも挑戦しました。難解な長文に苦戦こそしていましたが、現地生徒が優しく教えてくれる場面が印象的でした。

未来を拓く国際交流
～グラント郡中学生派遣事業を通して～

北里中学校　山下　亮

3日目の午前中は、初日に作ったロケットをグラウンドで打ち上げる授業でした。ロケットが空高く飛んでいく様子に、生徒達は日本とのスケールの違いに驚きながらも、歓声を上げていました。夕方からはお世話になったホストファミリー全員を交え、バーベキューパーティーを行いました。生徒達は、手作りのハンバーガーを楽しみ、バディとのふれあいなどを通して、最後の夜を心から満喫していました。

最終日の朝、ホストファミリーとの別れには多くの涙が見られました。バディの生徒達は、バスが見えなくなるまで走って追いかけ、手を振っててくれました。帰りの道中では、グラント郡のダム・運河の博物館を訪れ、農業やインフラについて英語の解説を通じて学習しました。難しい単語に苦戦しながらも、模型や展示を手がかりに、理解を深めようと努力する姿が見られました。

その夜はエバレット市のホテルに一泊し、翌朝シアトルから空路で帰国しました。長いフライトを経て、全員無事に小牧市へ帰ってくることができました。

４．ちょっと背中が頼もしくなって

派遣前、生徒達は「ホストファミリーとうまく話せるかな」「体調を崩さないかな」と不安を抱いていました。しかし、帰国時には「またロイヤルシティに行きたい」「今度は日本に招待したい」と語るまでに大きく変化していました。

言葉の壁は、片言の英語やジェスチャーを駆使して乗り越え、相手の目を見て話すことや、最後まで話を聴く大切さなど、非言語コミュニケーションも体得していました。

この経験は、語学力以上に、人との関わり方、自立心、異文化理解といった、人生を支える土台を育む貴重な機会となりました。引率者として、生徒達が困難を乗り越え、充実した時間を過ごす姿を間近で見守ることができたのは、何よりの喜びでした。

未来を拓く国際交流
～グラント郡中学生派遣事業を通して～

北里中学校　山下　亮

５．おわりに

本派遣事業は、子どもたちにとってかけがえのない経験となりました。言葉や文化の違いを越えて心を通わせ、広い世界を肌で感じた7日間。見送りのときとは違い、帰国後の生徒達は逞しさと柔軟さを身につけていました。

このような貴重な機会を支えてくださった関係者や保護者の皆様に心より感謝申し上げます。そして、この経験が生徒一人ひとりのこれからの人生の糧となることを、心より願っております。

グラント郡中学生派遣事業に参加して

小牧西中学校　宮腰　満枝

　このたび、グラント郡中学生派遣事業において、団長という立場でワシントン州ロイヤルシティを訪問する機会をいただきました。本派遣は、友好都市であるグランド郡との交流を通して、中学生が異文化に触れ、広い視野と国際感覚を育むことを目的としていましたが、私たち教員にとっても、大変学びの多い派遣となりました。

　現地では、生徒たちはホームステイをしながら、学校や地域でさまざまな活動に参加しました。私自身も現地の家庭に受け入れていただき、アメリカの生活を直に感じることができました。言葉の壁がある中でも、ホストファミリーの温かさに触れながら、心の交流ができたことは非常に貴重な体験でした。

　私たち教員は、生徒が授業を受けている時間帯に幼稚園、小学校、中学校を見学させていただきました。異なる文化の教育現場を見るのは私にとって初めてのことで、驚きや学びに満ちた体験でした。ロイヤルシティの学校では、4歳から文字や算数の教育が始まり、子供たちは皆、真剣に学習に取り組んでいました。メキシコからの移民の子どもたちが多く在籍している（児童・生徒の80％ほど）ため、英語を母語としないその子供たちに対して英語の力（こちらでいう国語の力）を育てるための授業が丁寧に行われていました。また、学ぶうえで特別な支援を必要とする生徒に対しても、それぞれに応じた学習支援が行われており、教育の多様性と包容力を感じました。現地には生活が貧しい家庭もあるようですが、地域や学校で支え、いろいろな民族が上手に共存していることに驚きを感じました。

グラント郡中学生派遣事業に参加して

小牧西中学校　宮腰　満枝

授業にも多くの工夫が見られました。私たちが行っているようなペア学習も取り入れられており、生徒に考えさせる場面が多く見受けられました。理科の授業では、先生が自作のノートを使って指導し、また教室（ロイヤルシティ中学校では生徒が先生の教室に授業を受けに来る）で多くの生物を飼育したり、模型などがたくさん展示してあったりしました。簡易なロケットを全校で飛ばす活動もあり、学校全体で体験活動を大切にしているように感じました。

滞在中に日本からの留学生にも出会いました。ロイヤルシティの高校に通う彼女は、英語を使う仕事を目指しているわけではなく、「自分が何をしたいか」を第一に考えていると話してくれました。英語はそのためのツールに過ぎないという考え方に、新鮮な驚きを感じました。こうした考え方に触れることもまた、大きな学びの一つだったと思います。

今回の派遣に参加した中学生たちは、市内のさまざまな学校から集まっており、最初は保護者と離れることや初めて顔を合わせる仲間との交流に緊張している様子がありましたが、出発前に3回の事前研修会を行い、現地で披露する出し物の練習や、交流に向けた準備を重ねることで、徐々に打ち解けていきました。

英語が得意な生徒ばかりではなかったと思いますが、現地ではそれぞれが身振り手振りを交えて一生懸命コミュニケーションをとろうとしていました。ある生徒は、距離を縮めるために好きな子の話をしてみたところ、そこから打ち解けることができたと話してくれました。言葉では伝えきれない思いを、行動や表情で一生懸命伝えようとする姿に、子どもたちの柔軟さと適応力の強さを感じました。

グラント郡中学生派遣事業に参加して

小牧西中学校　宮腰　満枝

ロイヤルシティの生徒たちも非常に温かく、日本からの生徒たちに積極的に関わってくれました。授業中に先生が話を始めるとすぐに静かになる姿に、日本の生徒は驚いていました。学校全体で私たちを歓迎してくれ、授業、放課後のクラブ活動など、充実した毎日を過ごすことができていたことは生徒の表情から明らかです。学校の活動以外でも、地域のスーパーでの買い物やダムの博物館の見学など、地元の産業や生活・自然にも触れることができ、生徒にとっては教科書では学べない体験が詰まった一週間になったことと思います。何よりも自然豊かな土地で、美しい景色とそこに暮らす人々の温かさに触れ、私にとってもまたいつか訪れたいと思う場所になりました。

初日はどのように交流していけばよいか戸惑っていた生徒たちも、最終日には、現地の生徒と連絡先を交換し、帰国の道中でもやり取りをしている様子が見られました。実際にその後も交流が続いているかどうかは分かりませんが、今回築いた関係が今後も大切にされていけば嬉しく思います。今回の派遣で、言葉や文化の違いがあっても、お互いに理解し合おうとする気持ちが大切であると多くの生徒が実感できたのではないでしょうか。

私自身も、英語がうまく話せず、もっと伝えられたらと思う場面が何度もありました。生徒たちも同じ思いを抱いたことでしょう。だからこそ、「伝えたい」という気持ちが、これからの学びの大きな原動力になると感じます。今後もこのような交流の機会が続き、子どもたちが異文化に触れ、多様な価値観と出会いながら、それぞれの未来へ向かって歩んでいけることを、心から願っています。